

The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

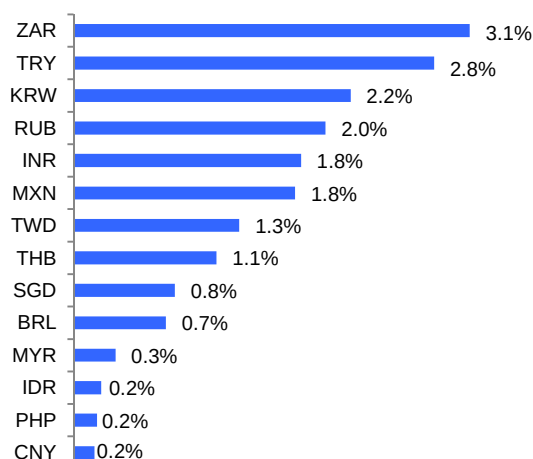
今週のエマージングマーケット

今週の新興国通貨はFOMC後に上昇

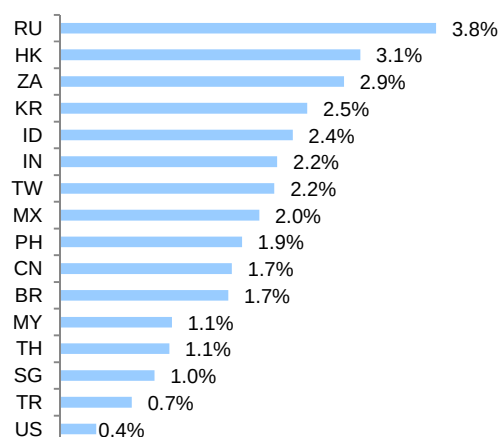
今週の新興国通貨は上昇した。先週末に発表された米2月雇用統計では非農業部門雇用者数は市場予想を上回るも、平均時給の伸びが市場予想を下回ったことを受けドルは軟化し、週初の新興国通貨は大半が堅調に推移した。14日、石油輸出国機構（OPEC）が発表した3月月報でサウジアラビアの2月産油量は1月から増加したことが明らかになり、原油価格が下落すると資源国通貨は連れ安となった。15日、FOMCでは政策金利を25bp引き上げることが決定された。しかし、メンバーの政策金利見通し（ドットチャート）による2017年の利上げ回数見通しは引き続き3回となり、4回を期待していた一部市場参加者の失望感からドルは売られ、新興国通貨は上昇した。16日、米2018年度予算教書が公表されたが、材料視されずドルは上値重く推移し、新興国通貨は値を伸ばした。

個別通貨で見ると、FOMC後に米金利が急低下したことを受け、高金利通貨であるZAR（+3.1%）とTRY（+2.8%）は強含んだ。TRYはトルコ中銀（CBRT）が金融政策決定会合で金融政策を引き締めたことも買い材料となった。また、先週の10日に韓国の憲法裁判所は朴大統領の弾劾訴追案を妥当とし、大統領は即時失職したことが好感されKRW（+2.2%）は上昇した。（大島由喜）

エマージング通貨騰落率（対ドル）



エマージング株式騰落率



（注）US：米国 S&P500 種指数、CN：中国上海総合指数、HK：香港ハンセン指数、IN：インド SENSEX30 種指数、ID：インドネシアジャカルタ総合指数、KR：韓国総合株価指数、MY：マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH：フィリピン総合指数、SG：シンガポール ST 指数、TW：台湾加権指数、TH：タイ SET 指数、RU：ロシア RTS 指数、ZA：南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR：トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR：ブラジルボエバ指数、MX：メキシコボルサ指数

（資料）ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

予想よりもハト派寄りだった
FOMCの結果などを受けて上昇

先週は、FOMC（14～15日）においてドットチャートが上方修正されるとの思惑や、オランダ下院選挙（15日）における極右・自由党（PVV）の躍進に対する懸念が新興国通貨の上値を押さえていた。しかしながら、FOMCではドットチャートの中央値が前回発表時（12月15日）からほぼ変わらず、オランダ下院選挙に関してはPVVが与党・自由民主党（VVD）に敗れた。その結果、今週の新興国通貨は週末にかけて上昇している。

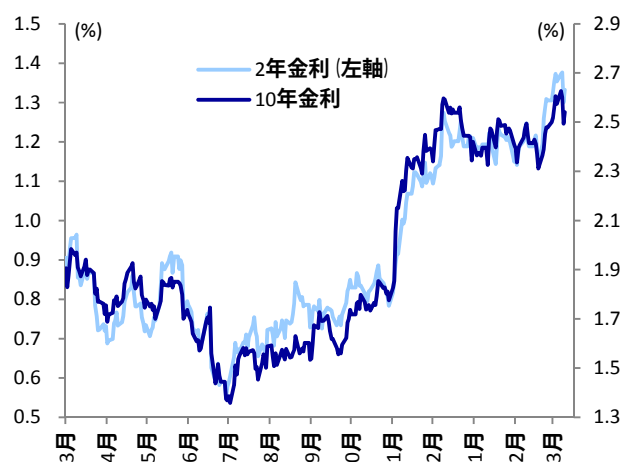
来週は市場全体の動きが安定
する中、高金利通貨が上昇か

来週の新興国通貨は続伸を予想する。本日の欧州時間から20か国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議が開催され、中でもムニューシン米財務長官の発言が注目される。トランプ米大統領の意向を受けて、特定の国に対して通貨安誘導をけん制するような発言が見られれば、名指しされた国の通貨が他の通貨と動きを異にする可能性が高く、注意が必要となる。また、G20終了後は主なイベントや経済指標の発表は予定されておらず、市場の値動きも安定することから、キャリー取引（低金利通貨を売って高金利通貨を買う取引）に有利な状況となろう。そのため、新興国通貨の中でもBRL、ZARなど高金利通貨の上昇が目立つ展開になると見込む。

原油価格とともに資源国通貨も
買い戻されると予想

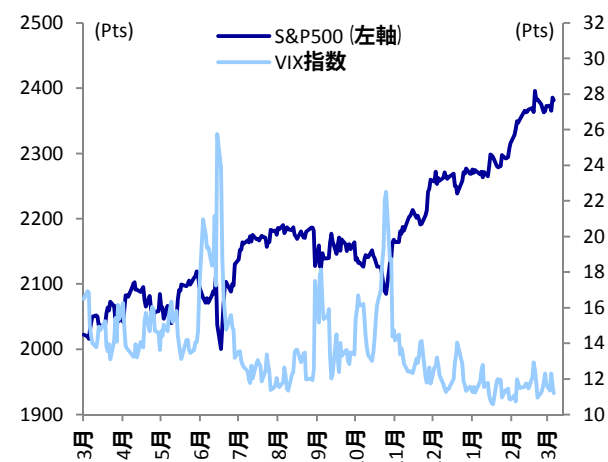
なお、米国の原油生産量増加を主因に、先週末から原油価格は続落している。もっとも、米国の生産量は市場価格との連動性が高く、価格の低迷が続けば生産量が減少に転じるため、原油価格が急落する可能性は低いと考える。実際、米国のリグ（採掘機器）稼働数は原油価格が急落する前は約1900基（2014年10月）だったが、急落後は約400基（2016年5月）まで大幅に減少した。かかる状況に鑑みれば、今後はリグ稼働数の低下などが見られることで、原油の過剰供給に対する懸念が後退し、原油価格は持ち直し、資源国通貨も連れ高となるだろう。（佐々木貴彦）

図表1: 米国債利回りの推移 (過去1年間)



(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

図表2: 米株とVIX指数の推移 (過去1年間)



(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

インド:地方選挙レビュー

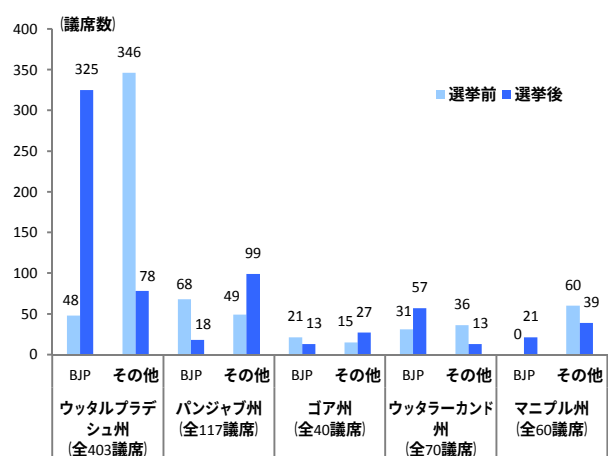
BJP の獲得議席数は事前予想を上回り大勝
11 日に開票された地方選挙（ウッタル・プラデシュ州、パンジャブ州、ゴア州、ウッタラーカンド州、マニプル州）では、最も注目されたウッタル・プラデシュ州でインド人民党（BJP、与党）が 403 議席中 325 議席を獲得する地滑り的な勝利を収めた。

モディ政権による経済改革の継続性は高まる
今回の地方選挙は昨年 5 月に開票されたアッサム州を初めとした選挙に続き、BJP が地方での支持を伸ばせるかどうか注目されていた。また、物品・サービス税（GST）導入が事前目標から 3 か月遅れて今年 7 月 1 日とされたことや、昨年 11 月 8 日に突如行われた高額紙幣廃止の経済的混乱が残る中での実施となったため、経済改革を続けるモディ政権の信を問う中間選挙との意味合いも強かった。加えてウッタル・プラデシュ州は人口が約 2 億人とインド国内で最も多いことや、国会上下院への割り当て議席数が多いこと、また過去に輩出した首相が最多であることなどから「ウッタル・プラデシュを制するものはインド政治を制する」とも言われている。そのため、今回の BJP による地滑り的な勝利は、モディ政権の経済改革に対する国民からの信任が示されただけでなく、2018 年以降に予定される同州での上院議員選出を通じた BJP の勢力拡大にも繋がる。今回の選挙結果は、モディ政権による経済改革の継続性が高まることで、インド経済と INR 相場にとってはポジティブな材料となるものだろう。（齋藤周）

インド: 2 月消費者物価指数 (CPI) は加速

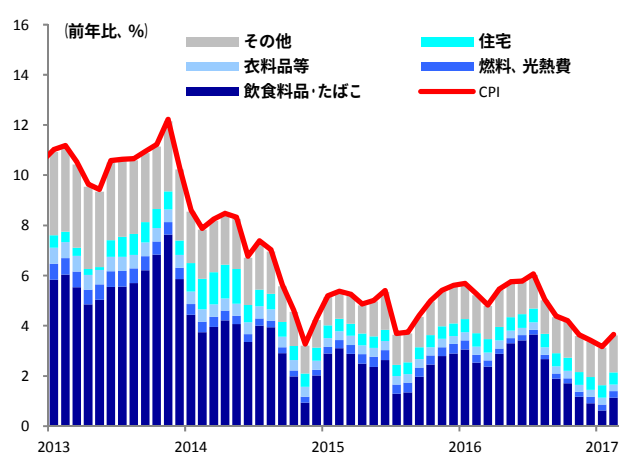
高額紙幣廃止の影響が剥落したことにより CPI は上昇
14 日に発表されたインド 2 月消費者物価指数（CPI）は前年比+3.65%と 1 月（同+3.17%）から加速した。内訳を見ると、食品・飲料品価格（1 月：同+1.37%→2 月：同+2.46%）の加速が CPI 全体を押し上げた。昨年 11 月に実施された高額紙幣廃止を受けて、現金決済が多いインドでは消費が減退し CPI は減速していたが、その影響の剥落が 2 月 CPI 上昇の一因となった

図表 3: インド地方選挙 与党 BJP の獲得議席数



(資料) 各種報道、みずほ銀行

図表 4: インド 消費者物価指数 (CPI)



(資料) CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

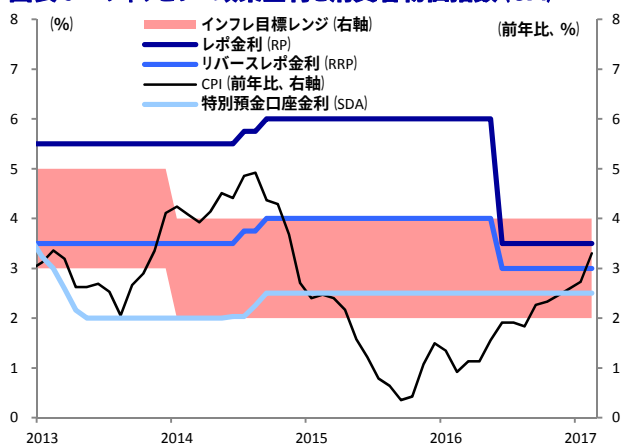
模様だ。今回の CPI 上昇を受け、インド準備銀行（RBI、中央銀行）の金融政策スタンスが引き締め方向に変わる公算が大きくなったと言えよう。前回の金融政策決定会合（2月8日）では、CPI が減速していたにも拘らず、RBI はインフレ率が加速するリスクは高いとし、市場の利下げ予想に反して政策金利を据え置いた。さらに金融政策スタンスを「緩和的」から「中立」に変更している。今後、インフレ率が 2017 年度（2017 年 4 月～2018 年 3 月）の RBI 予想値（+4%～5%）を超えてきた場合は、金融政策スタンスが「中立」から「引き締め」へと変わる可能性は高いと考える。（大島由喜）

フィリピン：金融政策決定会合プレビュー

インフレ加速も想定範囲内であり、政策金利は据え置きか

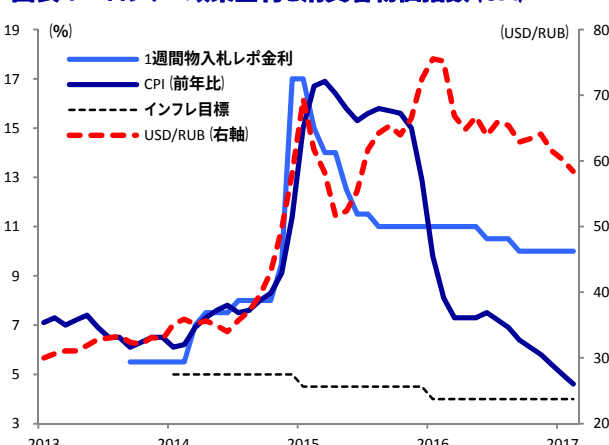
23 日（木）に開催されるフィリピン中銀（BSP）の金融政策決定会合では、政策金利の据え置きを予想する。前回会合（2月9日）では、政策金利であるリバースレポ（RRP）金利を 3.00%、金利コリドーの上限である翌日物貸出（RP）金利を 3.50%、下限である短期特別預金口座（SDA）金利を 2.50% にそれぞれ据え置いた。その結果コリドーは 1.00%ポイントに維持された。声明文では、先進国で予想される経済政策の変更により世界経済は一段と厳しい情勢となっているが、国内経済は良好な消費や投資、財政支出の拡大を背景として堅調に推移するとの見方を示している。インフレについては原油価格の持ち直しを背景に上昇傾向にあるとし、2017 年予想（+3.3%→+3.5%）と 2018 年予想（+3.0%→+3.1%）を従来の見通しから引き上げた。7日に発表されたフィリピン 2 月 CPI は前年比+3.3%と 1 月（同+2.7%）から加速し、2014 年 11 月以来の高水準となった。しかし、CPI 発表後にテタンコ BSP 総裁は「インフレ加速は予想通りであり、金融政策スタンスの即時変更を促す要因は見当たらない。ただ、BSP は引き続きデータに基づいて判断し、今後の決定を行う」と述べている。またフィリピン経済も堅調に推移していることから、今回の会合で BSP は現状の金融政策を維持すると予想する。（大島由喜）

図表 5: フィリピン 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6: ロシア 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

ロシア：金融政策決定会合プレビュー

原油価格下落と財務省のドル
買い介入を背景に据え置きか

24日（金）に開催されるロシア中銀（CBR）の金融政策決定会合では、政策金利が10.00%に据え置かれると予想する。前回会合（2月3日）の声明文では「国内外の状況に鑑みて、2017年前半におけるCBRの利下げ余地は縮小した」と昨年9月以降に明示してきた今年前半の利下げに否定的な見解を示した。インフレについては、CBRの予想通りに低下しているとしたほか、景気は事前予想よりも底堅いとしている。物価も景気も良好であるにも拘らず、声明文がタカ派化した背景として、1月25日にロシア財務省が2月以降に外貨購入を開始するとしたことが挙げられる。財務省は原油価格が1バレル40ドルを下回らない限り外貨買いRUB売り介入を当面は継続するとしており、更に利下げ期待も重なればRUBの大幅安を引き起こしかねないとの懸念がCBRにあったのだろう。足許、ロシア2月消費者物価指数（CPI）は前年比+4.6%と1月（同+5.0%）から減速しており、物価から見ればCBRの利下げ余地は拡大したと言えよう。2月9日にナビウリナ CBR 総裁は「政策金利を1桁まで引き下げた後、利下げ幅を25bpと従来より小幅にすることを検討」と緩和の詳細なペースに言及しており、CBRの利下げ意欲は強いと考えられる。また、3か年計画で1バレル40ドルとしている平均原油価格の見通しを引き上げる可能性も示唆しており、原油価格が安定推移する確度は高まったと判断している模様だ。しかし、3月に入り原油価格は下落する中、ロシア財務省もドル買いルーブル売り介入を続けていることからRUBは軟調に推移している。また、16日にはプーチン大統領が「インフレ圧力は依然として強く、利下げは時期尚早」とも発言しており、今回の会合でCBRは政策金利を据え置くと予想する。（大島由喜）

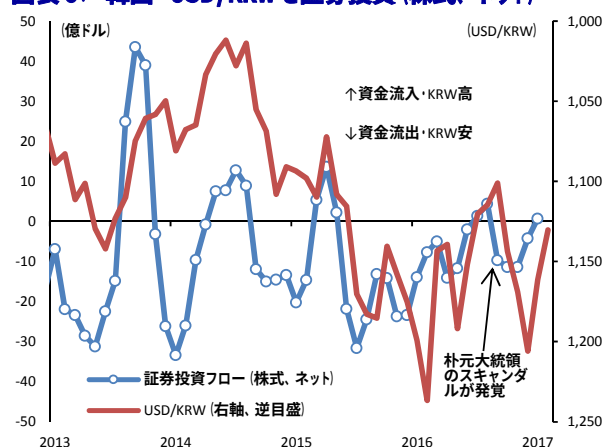
図表7：韓国 各候補者と支持率

名前	経歴	支持率	備考
文在寅 (ムン・ジェイン)	共に民主党 (前党首)	36.1%	前回の大統領選では接戦の末に敗北。足許は弾劾を可決させたことで支持率が急上昇
黄教安 (ファン・ギョアン)	セヌリ党 (大統領権限代行首相)	14.2%	15日に不出馬を表明
安熙正 (アン・ヒジョン)	共に民主党 (忠清南道知事)	12.9%	盧武鉉氏の当選に尽力、2003年に不正選挙資金容疑で実刑判決
安哲秀 (アン・ Cholス)	国民の党 (前共同代表)	9.9%	反・文在寅勢力（反文連帯）をまとめつつある有力候補の一人

(注) 支持率は3月9日時点

(資料) 各種報道、リアルメーター、みずほ銀行

図表8：韓国 USD/KRWと証券投資(株式、ネット)



(注) 証券投資のデータは3か月移動平均、2017年1月が最新データ、国際収支統計上の計数から符号を逆転させて表示

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

韓国：朴大統領の弾劾を受け本格化する大統領選

大統領選の先行き不透明感
は強い

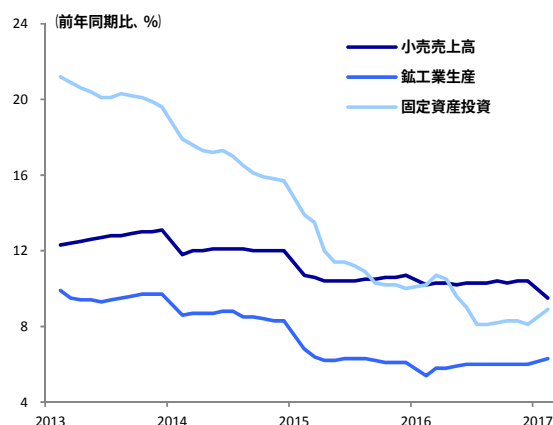
10 日、韓国の憲法裁判所は国会が可決した朴大統領（当時）に対する弾劾訴追案を妥当とし、大統領は即時失職した。これを受けて大統領選の正式な日程が公表され、投票日は 5 月 9 日（火）とされた。9 日の世論調査（リアルメーター）では文在寅氏（共に民主党・前党首）が支持率で 36.1%と、他の候補者の支持率が 10%台で低迷する中、支持を伸ばして優勢となった。しかし、15 日に有力候補だった与党（セヌリ党）の黄教安首相が大統領選不出馬を決めたことで、混戦に陥る可能性がある。セヌリ党に代表される保守派の有力候補が不在となったことで、保守派の票が中道と見られている安哲秀氏（国民の党・前共同代表）に流れる公算が大きいためだ。朴元大統領のスキandalが発覚した 2016 年 10 月から国内政治情勢の混迷などが嫌気され、韓国からの株式投資フローの流出が見られていた（図表 8）。大統領選が混戦模様となった場合は再び政治リスクが意識され、昨年 10 月と同様に株式投資フローの流出を背景に KRW は下押しされると予想する。（佐々木貴彦）

中国：月次経済指標はまちまち

小売売上高は減速も、生産と
投資に反発の動き

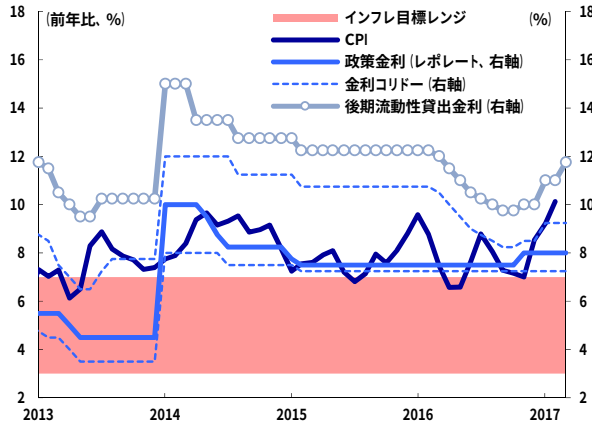
14 日に発表された中国 1～2 月期の経済指標は政府の経済政策を強く反映した結果となった。小売売上高は今年 1 月から小型車購入に係る自動車減税幅が縮小したことを背景に、前年同期比+9.4%と 1～12 月（同+10.4%）から減速し、同時期としては 2002 年以来の低い伸びとなった。一方、政府によるインフラ投資などを受けて、固定資産投資は同+8.9%（1～12 月：同+8.1%）、鉱工業生産は同+6.3%（1～12 月：同+6.0%）とそれぞれ昨年から加速している。なお、先行きに関しては所得の緩やかな拡大によって小売売上高は堅調な推移が予想されるが、政府による生産能力削減や住宅購入規制を背景に生産・投資は緩やかな減速が見込まれる。今月 5 日に開幕した

図表 9：中国 小売売上高、鉱工業生産、固定資産投資



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10：トルコ 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

全国人民代表大会（全人代）でも、財政収支の目標値が対 GDP 比▲3.0%と昨年から据え置かれたが、その内容はこれまでの公共投資から企業減税に軸足を移すもので景気下支え効果は縮小するとみられる。また、成長率目標は+6.5%前後と3年連続で引き下げられており、今年の中国経済は緩やかな減速基調が続く見込みだ。（齋藤周）

トルコ：金融政策決定会合レビュー

CBRT は追加引き締めを決定 23 日に開催されたトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、1 月中旬から実質的な市場金利の上限として用い始めた後期流動性貸出金利¹を 11.00%から 75bp 引き上げ 11.75%とした。一方で、金利コリドーの上限である翌日物貸出金利は 9.25%、政策金利のレポレートは 8.00%、金利コリドーの下限である翌日物借入金利は 7.25%にそれぞれ据え置かれた。その結果、コリドーは 2.00%ポイントで維持された。声明文では、食品価格の急激な変動により、インフレ率が大幅に加速する可能性があることから金融引き締めの強化を決めたとしている。なお、TRY の急落に対して危惧を示す文言は今回の声明文から削除された。背景には、TRY が前回会合（1 月 24 日）時点では対ドルで 3.8 台にて軟調に推移していたものの、足許は 3.6 台まで上昇したことが挙げられる。米金利の上昇も一服感が見られる中、CBRT は追加引き締めも辞さない態度を示しており、金利差拡大の思惑を背景に、当面の TRY は底堅く推移するだろう。しかしながら、エルドアン大統領の権限を強化する憲法改正案の是非を問う国民投票（4 月 16 日）を控えて、反エルドアン勢力からの反発が懸念されている。また、足許ではドイツとオランダ政府がトルコ系住民の改憲支持集会を中止させたことに対しエルドアン大統領が報復を示唆したため、両国との関係は急速に悪化した。国民投票が近づくにつれ、トルコを巡る地政学リスクが増大する可能性が高く、4 月の TRY は売り優勢の展開になると予想する。（佐々木貴彦）

¹ 本来は取引時間内で資金調達出来なかった金融機関に対して CBRT が緊急貸出を行う際に用いる金利だった。しかし、1 月 16 日に CBRT がインターバンク資金市場から調達できる上限金額（110 億リラ）を従来の金額から半減させたことにより、多くの金融機関は同金利で CBRT から資金調達を余儀なくされている。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
3月10日 (金)	タイ	消費者信頼感指数	--	75.8	74.5	--
3月10日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$2985m	-\$2314m	-\$2564m	--
3月10日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	0.5%	2.7%	-0.4%	--
3月13日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	5.3%	3.5%	4.7%	--
3月14日 (火)	中国	固定資産投資	8.3%	8.9%	8.1%	--
3月14日 (火)	インド	卸売物価(前年比)	6.1%	6.6%	5.3%	--
3月14日 (火)	インド	消費者物価指数(前年比)	3.6%	3.7%	3.2%	--
3月15日 (水)	インドネシア	貿易収支	\$1322m	\$1319m	\$1396m	--
3月15日 (水)	フィリピン	海外送金(前年比)	5.3%	8.6%	3.6%	--
3月15日 (水)	インド	貿易収支	-\$9760m	-\$8896m	-\$9841m	--
3月16日 (木)	インドネシア	インド・ネシア銀行 預金ファシリティ・レート	4.75%	4.75%	4.75%	--
3月17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	12.5%	21.5%	8.6%	--
16~18日	中国	海外直接投資	-4.2%	--	-9.2%	--
16~31日	インド	国際収支・経常収支	-\$12.00b	--	-\$3.40b	--
3月20日 (月)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$9m	-4.29b
3月23日 (木)	シンガポール	消費者物価指数(前年比)	0.4%	--	0.6%	-3.1%
3月23日 (木)	台湾	鉱工業生産(前年比)	11.8%	--	2.8%	0.2%
3月23日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	3.0%	--
3月23日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	--	1.375%	--
3月24日 (金)	韓国	消費者信頼感	--	--	93	--
3月24日 (金)	マレーシア	消費者物価指数(前年比)	3.4%	--	3.2%	--
3月24日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	7.5%	--	2.2%	--
中東欧・アフリカ						
3月13日 (月)	トルコ	経常収支	-2.85b	-2.76b	-4.27b	--
3月14日 (火)	南アフリカ	鉱物生産量(前年比)	1.2%	1.3%	-1.9%	--
3月14日 (火)	南アフリカ	製造業生産(季調済/前月比)	1.5%	-0.4%	0.3%	--
3月14日 (火)	ロシア	貿易収支	11.6b	11.4b	11.8b	--
3月16日 (木)	トルコ	指標レオ・レート	8.00%	8.00%	8.00%	--
3月16日 (木)	トルコ	翌日物貸出金利	9.25%	9.25%	9.25%	--
3月16日 (木)	トルコ	翌日物借入金利	7.25%	7.25%	7.25%	--
3月16日 (木)	トルコ	後期流動性貸出金利	11.75%	11.75%	11.00%	--
16~17日	ロシア	鉱工業生産(前年比)	1.3%	--	2.3%	--
3月20日 (月)	ロシア	失業率	5.6%	--	5.6%	--
3月20日 (月)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	-2.0%	--	-2.3%	--
3月22日 (水)	南アフリカ	消費者物価指数(前年比)	6.4%	--	6.6%	--
3月22日 (水)	南アフリカ	経常収支	-150b	--	-176b	--
3月23日 (木)	トルコ	消費者信頼感指数	--	--	66	--
3月24日 (金)	ロシア	主要金利	10.00%	--	10.00%	--
ラテンアメリカ						
3月10日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	4.9%	4.8%	5.4%	--
3月14日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(前年比)	0.0%	-0.1%	-0.6%	--
3月22日 (水)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	5.0%	--
3月24日 (金)	ブラジル	経常収支	--	--	-\$5085m	--
3月24日 (金)	メキシコ	小売売上高(前月比)	--	--	-1.4%	--
3月24日 (金)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	9.0%	--

(注) 2017年3月17日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料) ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2017年 1～2月 (実績)	SPOT	2017年 3月	6月	9月	12月	2018年 3月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.8315 ～ 6.9640	6.8980	6.90	6.95	7.00	7.10	7.10
香港ドル	(HKD)	7.7531 ～ 7.7632	7.7638	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.648 ～ 68.388	65.408	66.8	68.5	66.3	65.5	65.0
インドネシアルピア	(IDR)	13236 ～ 13496	13347	13400	13600	13300	13000	12800
韓国ウォン	(KRW)	1127.76 ～ 1211.78	1132.06	1140	1160	1140	1120	1100
マレーシアリング	(MYR)	4.4198 ～ 4.5002	4.4383	4.45	4.45	4.35	4.22	4.10
フィリピンペソ	(PHP)	49.360 ～ 50.384	50.184	50.3	50.5	49.8	49.0	48.3
シンガポールドル	(SGD)	1.3975 ～ 1.4547	1.4013	1.42	1.45	1.42	1.40	1.39
台湾ドル	(TWD)	30.655 ～ 32.447	30.659	30.80	31.20	30.80	30.40	30.00
タイバーツ	(THB)	34.77 ～ 36.01	34.93	35.1	35.3	35.0	34.9	34.8
ベトナムドン	(VND)	22528 ～ 22846	22780	22800	22900	22750	22650	22650
中東・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	56.5578 ～ 61.7190	57.7507	59.00	60.00	60.00	58.00	58.00
南アフリカランド	(ZAR)	12.7920 ～ 13.9810	12.7675	13.20	13.80	14.40	14.00	13.50
トルコリラ	(TRY)	3.5143 ～ 3.9415	3.6253	3.60	3.60	3.70	3.80	3.90
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.0413 ～ 3.2912	3.1190	3.15	3.20	3.26	3.30	3.28
メキシコペソ	(MXN)	19.6090 ～ 22.0385	19.2590	22.00	21.00	21.00	20.50	20.20
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	16.253 ～ 17.031	16.402	15.94	16.12	15.57	14.79	14.65
香港ドル	(HKD)	14.386 ～ 15.291	14.595	14.18	14.43	14.05	13.53	13.40
インドルピー	(INR)	1.651 ～ 1.735	1.732	1.65	1.64	1.64	1.60	1.60
インドネシアルピア	(100IDR)	0.838 ～ 0.880	0.849	0.821	0.824	0.820	0.808	0.813
韓国ウォン	(100KRW)	9.599 ～ 10.079	10.044	9.65	9.66	9.56	9.38	9.45
マレーシアリング	(MYR)	25.182 ～ 26.274	25.554	24.72	25.17	25.06	24.88	25.37
フィリピンペソ	(PHP)	2.227 ～ 2.377	2.261	2.19	2.22	2.19	2.14	2.15
シンガポールドル	(SGD)	78.88 ～ 81.66	80.86	77.46	77.24	76.76	75.00	74.82
台湾ドル	(TWD)	3.570 ～ 3.741	3.696	3.57	3.59	3.54	3.45	3.47
タイバーツ	(THB)	3.187 ～ 3.300	3.244	3.13	3.17	3.11	3.01	2.99
ベトナムドン	(100VND)	0.4903 ～ 0.5213	0.4976	0.48	0.49	0.48	0.46	0.46
中東・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.860 ～ 2.024	1.961	1.86	1.87	1.82	1.81	1.79
南アフリカランド	(ZAR)	8.296 ～ 8.852	8.875	8.33	8.12	7.57	7.50	7.70
トルコリラ	(TRY)	29.076 ～ 33.476	31.241	30.56	31.11	29.46	27.63	26.67
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	34.866 ～ 37.450	36.329	34.92	35.00	33.44	31.82	31.71
メキシコペソ	(MXN)	5.164 ～ 5.750	5.884	5.00	5.33	5.19	5.12	5.15

(注) 1. 実績の欄は 2017 年 2 月 28 日まで。SPOT は 3 月 17 日の 7 時 30 分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。4. 見通しの値は『Emerging Market Monthly (3 月 1 日発行)』及び『中期為替相場見通し (2 月 28 日発行)』に基づく
(資料) みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。